

## N06b 銀河面の *Chandra* 深観測で検出された硬 X 線点源の赤外追観測とその正体

辻本 匡弘 (PSU)、海老沢 研 (ISDC)、Beckmann, V.(NSSA/GSFC)、Courvoisier, T. J.-L., Dubath, P.(ISDC)、金田英宏、前田良知 (宇宙研)、山内茂雄 (岩手大学)、西原英治 (ぐんま天文台)

銀河面リッジ X 線放射の起源を探るために我々が行った *Chandra* 銀河面深観測から、拡散 X 線成分に加えて約 90 個の硬 X 線点源が検出された (拡散 X 線成分については、別報 Ebisawa et al. 2001, Science, 293, 1633 参照)。約 500 平方分角に分布するこれらの硬 X 線点源に対し、既存の可視、赤外、電波カタログを用いて対応天体を調べた結果、対応天体は全く見つからなかった。これらの硬 X 線点源 (殆どが検出限界  $3 \times 10^{15} \text{ ergs s}^{-1} \text{ cm}^{-2}$  付近の暗い天体) の正体を知るためには、X 線感度に匹敵する赤外線深観測が有効である。

我々は欧州南天天文台 (ESO) NTT 望遠鏡搭載 SofI 検出器を用いて、*J*、*H*、*K<sub>s</sub>* バンドで *Chandra* 視野を掃過する撮像追観測を行った。積分時間はそれぞれ、10 分、10 分、14 分である。*K<sub>s</sub>* バンドイメージから、5 以上で近赤外線源を検出し、それぞれの位置、等級をカタログにした。限界等級は約 20 等級であり、当該領域では最深のデータである。これを用いて、*Chandra* X 線点源に近赤外線同定をつけた。X 線及び近赤外線の観測諸量から、X 線点源の正体を推測する。